

授業概要

教育心理学の意義・目的、内容・領域について概観すると同時に、教育・保育に関わる、子どもの発達、子どもが主体的に取り組める授業・保育の展開、教師・保育士のリーダーシップ、学習の評価、障害児の理解と支援について学ぶ。また、家庭との連携による子どもの成長・発達も考える。

授業計画

第 1 回	教育心理学の成り立ちと目的について学ぶ。
第 2 回	発達の諸相(1)：発達に及ぼす遺伝と環境の影響について触れると同時に環境の影響としての教育の重要性について考える。
第 3 回	発達の諸相(2)：①愛着形成と初期経験の重要性について学ぶ。②身体能力、言語、感情などの発達について学ぶ。
第 4 回	発達の諸相(3)：エリクソンのライフサイクル理論とピアジェの認知発達理論を理解し、発達段階を踏まえた適切な学習方法についての理解を深める。
第 5 回	学習の諸相(1)：古典的条件付けやオペラント条件付けなどの学習理論について教育との関係から学ぶ。
第 6 回	学習の諸相(2)：洞察学習、観察学習、潜在学習などの基本的な学習理論について教育との関係から学ぶ。
第 7 回	授業の展開(1)：子どもの興味・関心と動機づけのメカニズムについて考え、動機づけ理論の背景と原理、実践例について学ぶ。
第 8 回	授業の展開(2)：バズ学習、発見学習、有意味受容学習などの指導方法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
第 9 回	授業の展開(3)：発見学習や有意味受容学習などの指導法の特徴と理論的背景について学ぶ。
第 10 回	クラス集団の理解と指導(1)：教師・保育士のリーダーシップ、リーダーシップと子どもの学習環境形成に関わるクラス経営の在り方を学ぶ。
第 11 回	クラス集団の理解と指導(2)：いじめの現状と背景、いじめを起こさない心の教育、子どもと教師の関係、子ども同士の関係について考える。
第 12 回	学習の評価：学習評価の目的を理解し、学習成果についての評価の方法（絶対評価、相対評価、個人内評価、診断的評価、形成的評価、到達度評価、ポートフォリオ評価など）について学び、その特徴を理解する。また、実践例を通して理解を深める。
第 13 回	障害児への対応(1)：広汎性発達障害や学習障害など発達障害の種類や各障害の特徴の理解。
第 14 回	障害児への対応(2)：発達障害児への支援を理解し、必要な支援について考える。
第 15 回	家庭の連携と子どもの成長・発達支援を考える。
第 16 回	定期試験

到達目標

①教育・保育に関連する問題に興味を持ち、教育心理学の知識を用いて分析検討できる。②教育心理学の用語や理論を用いて学習指導や学級経営について理解し、説明することができる。③教師・保育士として生き生きと関わることの重要性について理解する。

履修上の注意

①毎回出席を取るのので休まないこと。②授業には積極的に参加すること。授業中は質問していくので積極的に発言するように心掛けること。③内容に応じて、小テストを実施することがある。

予習・復習

各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。

評価方法

レポート提出(30%)、平常点(授業の中で行う小テスト)(30%)、筆記試験(40%)により合わせて総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『発達と学習の心理学』
- ・著者名：尾形 和男
- ・出版社名：田研出版
- ・出版年 (ISBN)：2013 (978-4-86089-040-7 C3011)